

タイトル	本学における体育実技指導概要と受講学生の履修状況報告：2006年度・2007年度学生の履修について(竹田憲司教授退職記念号)
著者	伊熊，克己；田中，昭憲；亀井，伸照；竹田，憲司
引用	北海学園大学経営論集，6(4)：149-161
発行日	2009-03-25

# 本学における体育実技指導概要と 受講学生の履修状況報告

— 2006 年度・2007 年度学生の履修について —

伊 熊 克 己 ・ 田 中 昭 憲  
亀 井 伸 照 ・ 竹 田 憲 司

## はじめに

我が国の大学教養教育は、1991年に施行された新大学設置基準（大綱化）により、一般教育科目、外国語科目、専門科目といった授業科目の区分規定が廃止された。それまで多くの大学は、各科目区分に最低履修単位を定めて1・2年次に教養課程、3年次以降に専門課程と分けてカリキュラムを編成していた。しかし、この基準施行後は1年次から専門科目履修を可能にするカリキュラムを前倒しする教育を進めてもよいことになり、また、あわせて教養科目のあり方についても各大学の自由裁量が認められた。以上のような大綱化による大学教養教育の変遷から、大学体育は教養科目の1つとしてその存在価値を示すためにも、高等学校までの指導目的とは異なる大学独自の目的およびその具体的目標を明確に提示する必要性が出てきたものと考えられる。

そこで、本稿の目的は1つ目に本学体育実技の指導目的、科目単位取得要件、開講種目の紹介を行い、本学体育実技の授業概要について解説することであり、また、2つ目に2006年度、2007年度における体育実技受講学生の履修率、希望率、合格率の3つの観点に着目し、受講学生の履修状況について現状を報告することである。

## 本学体育実技の授業概要について

### I. 体育実技指導目的

本学体育実技の指導目的は「体育授業を通して、人間生活の基本である健康・体力に関する理解を深め、これらを積極的に維持増進していく態度や能力を養成する。また、運動文化の伝達・発展などの身体的教養を身につけ、豊かな人間性を養うこと。」にある。そのために「1. 活動的な毎日を過ごすことのできるライフスタイル形成 2. 健康と体力を増進・向上させる理論と実践方法の習得 3. 文化としてのスポーツの価値を認識し、生涯を通じてスポーツ活動のできる能力の養成」の3項目の具体的目標を掲げている。

以上の項目について換言すると、大学体育の使命とは自己の健康管理や体力の維持・向上を狙いとする健康教育の一環として実施される教科でなければならない。学生時代は、成長期を経て継続されてきた自己の生活習慣がいよいよ確立される大切な時期を迎える。したがって、学生に健康的ライフスタイルを常に実践させる行動変容を促す指導が必要である。また、自己の健康管理や体力の維持、向上についての知識理解をより深めさせるとともに、あわせて、効果的な身体運動の実践方法について習得させることも重要である。また、さらに、体育実技を単なるスポーツ技

能修得の場とするだけではなく、スポーツを文化の一つとして捉えてその価値を見いだすとともに、自身が今後の人生において、一生涯を通しての運動・スポーツ活動である生涯体育をいかに進めていくかという点について、真剣に考える場とさせることも必要である。以上が、本学の体育実技における教育目的およびその具体的目標である。

## II. 体育実技科目単位取得要件

次に、本学の体育実技科目単位取得要件について述べることとする。

- 1) 体育実技は選択科目として実施している。ただし、経済学部1部の2003年～2007年度カリキュラム適用の学生については、保健体育科目（体育実技・健康科学）が2単位必修となっている。また、教職免許状取得希望者については体育実技2単位の必修が義務付けられている。
- 2) 体育実技の単位数は、30時間1単位である。つまり、半期を1単位としている。学生の履修については半期のみで終了しても良いし、1・2学期を通して同一科目を受講することも、異なる科目の受講についても可能としている。もちろん、1・2学期を通して受講した者は2単位が、2学期のみ受講した者は1単位の取得が可能である。
- 3) 体育実技は、半期に1単位のみ（年間合計2単位）履修可能である。  
4年生までに1部学生最大8単位、2部学生最大4単位履修可能である。  
本学では体育科目を4年間一貫して履修できるよう配置している。  
なお、学部学科別履修上限単位数については表1に示す通りである。

## III. 開講種目紹介

次に、本学にて開講されている体育実技種目について紹介していきたい。

表1 学部学科別履修上限単位数について

学部	学科	上限単位数	
		1部	2部
経済学部	経済学科	8	4
	地域経済学科	8	4
経営学部	経営学科	8	4
	経営情報学科	8	—
法学部	法律学科	8	4
	政治学科	8	4
人文学部	日本文化学科	8	4
	英米文化学科	8	4
工学部	社会環境工学科	8	—
	建築学科	8	—
	電子情報工学科	8	—

資料：北海学園大学体育実技 履修の手引きより

### 1) フィットネス関連種目について

「フィットネス」とは、自分の理想（身体的・精神的・社会的）とする姿に『適合（FIT）した身体や心の状態』を意味し、日々の生活を生き生きとしたものとするために必要な健康・体力を総称して「フィットネス」と呼んでいる。本学のフィットネス関連種目の授業の目的は、学生によりアクティブな生活を送らせるために必要な健康管理や体力づくりの実践にあり、そのための知識や理論の習得および効率的な実践方法を身につけさせようとするものである。

本学のフィットネス関連種目はフィットネス、ウエイトトレーニング、スポーツトレーニング、エアロビックダンスエクササイズ、ウォーキング&ジョギング等を開講している。

### 2) スポーツ種目について

「スポーツ種目」は、履修学生が生涯スポーツとして継続実施できるよう、その種目についての知識（種目の歴史、特性など）理解を深めさせ、技能の習熟を図り、あわせてスポーツの楽しさに触れることを目的としている。また、学生間の友情や人間関係を深めさせるために、参加者の自主的活動を重視している。

本学のスポーツ種目には、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ハンドボール、卓球等の室内球技と軟式野球、ソフトボール、サッカー、硬式テニス等の屋外球技、また、記録や勝敗追求にこだわらない実践形態で、あくまでスポーツを楽しむことに重点を置くレクリエーションスポーツ、ニュースポーツが開講されている。また、武道種目として柔道、空手道を開講している。各開講種目の概要等については表2に示した。

#### IV. 受講学生履修状況について (2006年・2007年)

さて、ここからは受講学生の履修状況について報告する。

本報告は平成18年(2006年)と平成19

年(2007年)の2年間における在籍学生を対象に、体育実技の履修状況をみたものである。その内訳は、

2006年度：1学年から4学年の在籍者  
(男女総数1部6505名・2部2170名)

2007年度：1学年から4学年の在籍者  
(男女総数1部6566名・2部2250名)

である。なお、両年度の在籍者詳細については表3に示した。

本報告は上記対象学生の内、体育実技の履修率、希望率、合格率について調査したものである、それら数値の意味は次の通りである。

履修率とは、教務に履修登録した学生の履修者数を各年度における在籍者数の割合で見た数値である。

希望率とは、学生が履修希望調整時に提出

表2 体育実技開講種目概要

開 講 種 目		授 業 目 標 と 内 容
フイットネス種目	フィットネス	体力の現状認識・適応運動の創造・日常生活での実践(ストレッチ, 有酸素運動, 抵抗を利用した運動) 2部(健康体操・疲労回復運動)
	ウェイトトレーニング	個人のニーズに適合したウェイトトレーニングの正しい実践方法の理解と継続的なトレーニング習慣の育成
	スポーツトレーニング(1部のみ)	スポーツ科学に基づくトレーニングの基礎理論と実践方法の理解
	エアロビックダンスエクササイズ(1部のみ)	ダンス形式による有酸素運動の基礎理論と実践方法の理解
	ウォーキング&ジョギング(1部のみ)	ウォーキング・ジョギングによる有酸素運動の基礎理論と実践方法の理解
スポーツ種目	レクリエーションスポーツ, ニュースポーツ	勝敗主義にとらわれない楽しむためのスポーツ実践スポーツを通じての仲間づくり, コミュニケーション
	柔道(1部のみ)	実技実践・技能習得だけではなく, 武道の心に触れる
	空手道(1部のみ)	
	バスケットボール(屋内)	スポーツ種目の基礎知識理解, 技能習熟, スポーツ活動の楽しさを体験させる チームスポーツの実践を通じて人間関係を深め, 社会性・強調性を育成
	バレーボール(屋内)	
	ハンドボール(屋内)	
	バドミントン(屋内)	
	卓球(屋内)	
	軟式野球(屋外)	
	ソフトボール(屋外)	
	サッカー(屋外)	
硬式テニス(屋外)		

表3 対象学生の在籍人数（2006年・2007年の在籍学生数）

学部	部	学科	2006年度		2006年度		2006年度		2006年度		2007年度		2007年度		2007年度		2007年度	
			1学年		2学年		3学年		4学年		1学年		2学年		3学年		4学年	
			在籍	女子														
経済学部	1部	経済学科	185	38	185	34	177	36	236	53	240	49	185	37	181	34	211	39
		地域経済学科	174	39	165	33	152	36	154	37	186	28	183	41	159	33	165	37
		経営学科							61	11							19	2
経営学部	1部	経営学科	186	62	178	57	188	44	182	53	208	58	193	64	176	57	201	46
		経営情報学科	155	39	154	63	184	53	148	43	179	71	160	41	145	61	199	55
法学部	1部	1年	348	108							298	89						
		法律学科			236	85	196	80	230	71			221	81	237	86	219	83
		政治学科			136	31	138	30	142	39			137	33	131	32	146	30
人文学部	1部	日本文化学科	135	80	132	85	118	76	132	83	116	81	140	80	124	82	129	79
		英米文化学科	128	74	130	73	109	74	134	99	106	64	129	74	128	74	118	76
工学部		社会環境工学科	94	4	82	2	87	2	100	7	82	2	78	4	78	2	110	3
		建築学科	98	23	88	17	93	15	114	15	128	24	85	20	86	18	108	15
		電子情報工学科	127	6	102	3	89	4	123	6	122	8	110	6	103	3	107	3
1部 合計			1630	473	1588	483	1531	450	1756	517	1665	474	1621	481	1548	482	1732	468
経済学部	2部	経済学科	103	11	108	6	82	14	106	18	103	8	120	11	82	5	128	18
		地域経済学科	42	6	65	11	42	2	41	5	58	6	46	5	56	10	55	3
		経営学科					1		39	7							17	4
経営学部	2部	経営学科	121	24	126	31	93	14	112	25	117	22	139	26	97	30	115	16
法学部	2部	1年	197	50							187	50						
		法律学科			145	36	105	28	146	27			129	38	117	34	164	32
		政治学科			72	15	36	4	45	9			65	7	65	12	43	4
人文学部	2部	日本文化学科	51	29	51	31	55	26	46	28	52	25	51	31	47	31	59	28
		英米文化学科	39	16	41	21	25	11	35	20	38	16	38	15	33	18	29	11
2部 合計			553	136	608	151	439	99	570	139	555	127	588	133	497	140	610	116

※在学者は休学を除き、在籍者は休学者を含めた人数

※法学部は2005年度より学部入試のため1年次生は学科の区別なし

※経済学部経営学科（1部・2部ともに）は2003年度入試から募集停止、2007年度を以って廃止

資料：経営学部事務室より

したマークカードの体育実技履修希望数を各年度の在籍者数の割合で見た数値を示している。本学の体育実技は、それぞれの実技種目について、実施会場や用具の関係および教育効果について配慮する観点から、各開講種目の受講人数制限を定めている。このため教務履修以前に学生の履修希望調整（第1・第2希望の調査）を行い、受講希望者が定員を超える開講種目についてはコンピュータの乱数

を用いた無作為抽出による抽選を行い、受講種目を決定する方法を導入している。

合格率とは、体育実技の合格者数を履修者数の割合から見た数値を示したものである。

#### 1) 履修率について

はじめに2006年度と2007年度における1部学生の履修率についてみていくこととする。なお、表4-A、Bは履修者の一覧、図1は

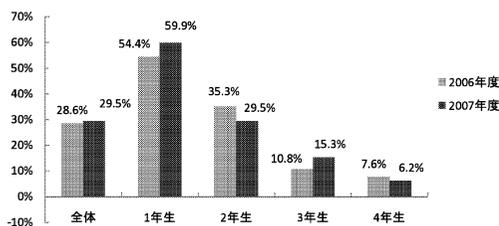


図1. 履修率1学期(1部)

第1学期、図2は第2学期の履修率を示している。これによれば、全体では学生の履修者数および履修率は、2006年度第1学期(1590名・28.6%)、第2学期(1476名・26.5%)、2007年度第1学期(1678名・29.5%)、第2学期(1541名・27.1%)であった。1部学生の在籍者数は両年度ともに6500名以上であるが、この内の約3割の者が体育実技を履修していた。体育実技は選択科目として実施されていることから考慮すれば、この数値は概ね良好な結果と考えられる。

次にこれを学年別にみると、1年生では2006年度第1学期(887名・54.4%)、第2学期(813名・49.9%)、2007年度第1学期(998名・59.9%)、第2学期(904名・54.3%)であり5割から5割強と多く、履修率は他の学年を凌駕していた。この原因は、「体育実技は出来るだけ1年次に履修したい。」という学生の意識が影響しているのではないかと推測される。また、上級生の履修率に着目すると、2年生では2006年度第1学期(464名・35.3%)、第2学期(444名・33.7%)、2007年度第1学期(398名・

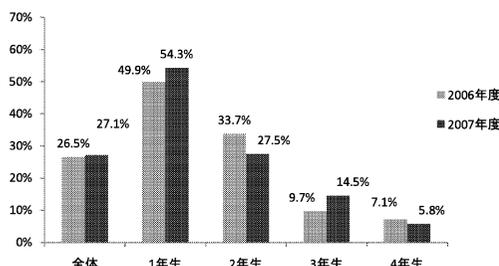


図2. 履修率2学期(1部)

29.5%)、第2学期(371名・27.5%)と2割から3割強を占めていた。3年生では2006年度第1学期(136名・10.8%)、第2学期(122名・9.7%)、2007年度第1学期(196名・15.3%)、第2学期(186名・14.5%)、4年生では2006年度第1学期(103名・7.6%)、第2学期(97名・7.1%)、2007年度第1学期(86名・6.2%)、第2学期(80名・5.8%)を占めていた。両年度とも上級学年におけるそれぞれの在籍者数は1500人以上である。在籍者数から上級生の履修率を判断すると、体育実技のニーズは必ずしも低くはない。

次にこれを性別でみると、男子では2006年度第1学期(1137名・30.5%)、第2学期(1044名・28.0%)、2007年度第1学期(1183名・30.7%)、第2学期(1094名・28.4%)を占めていた。他方、女子では2006年度第1学期(453名・24.6%)、第2学期(432名・23.5%)、2007年度第1学期(495名・27.1%)、第2学期(447名・24.4%)を占めていた。男女とも2割強から3割の者が体育実技を履修していた。特に、女子は男子より在籍者数が少数であるにも関わらず2割強の履修率を占めており、積極的な履修状況を窺わせる結果であった。今後、より多くの女子学生に授業履修を促していく観点から、女子の実技指導計画の再検討、再構築を図っていくことが重要になるだろう。また、体育館の女性専用施設(女性ロッカールーム・女性専用シャワールーム等)の増設や整備も必要と考えられる。なお、この件については学生サイドからも改善への強い要望が出されていることから、1日も早い検討が望まれる。

次に、学部別に履修率の特徴をみていくことにする。これによれば、経済学部1年生では2006年度第1学期(281名・78.3%)、第2学期(258名・71.9%)、2007年度第1学期(346名・81.2%)、第2学期(305名・



表4-B. 体育実技の履修者と希望者(1部)

学年	学部	性別	2006年度						2007年度									
			1学期			2学期			1学期			2学期						
			履修者	履修率	希望者	希望率	履修者	履修率	希望者	希望率	履修者	履修率	希望者	希望率				
3 年 生	経済学部	男子	38	14.8%	47	18.3%	32	12.5%	44	17.1%	38	13.9%	64	23.4%	40	14.7%	65	23.8%
		女子	2	2.8%	6	8.3%	1	1.4%	6	8.3%	9	13.4%	7	10.4%	8	11.9%	7	10.4%
		合計	40	12.2%	53	16.1%	33	10.0%	50	15.2%	47	13.8%	71	20.9%	48	14.1%	72	21.2%
	経営学部	男子	33	12.0%	47	17.1%	33	12.0%	48	17.5%	30	14.8%	34	16.7%	31	15.3%	34	16.7%
		女子	13	13.4%	7	7.2%	13	13.4%	7	7.2%	11	9.3%	23	19.5%	9	7.6%	33	19.5%
		合計	46	12.4%	54	14.5%	46	12.4%	55	14.8%	41	12.8%	57	17.8%	40	12.5%	57	17.8%
	法学部	男子	19	8.5%	19	8.5%	15	6.7%	18	8.0%	50	20.0%	55	22.0%	49	19.6%	56	22.4%
		女子	10	9.1%	13	11.8%	9	8.2%	10	9.1%	23	19.5%	28	23.7%	22	18.6%	28	23.7%
		合計	29	8.7%	32	9.6%	24	7.2%	28	8.4%	73	19.8%	83	22.6%	71	19.3%	84	22.8%
	人文学部	男子	9	11.7%	11	14.3%	8	10.4%	9	11.7%	14	14.6%	9	9.4%	10	10.4%	9	9.4%
		女子	12	8.0%	15	10.0%	11	7.3%	15	10.0%	21	13.5%	28	17.9%	17	10.9%	30	19.2%
		合計	21	9.3%	26	11.5%	19	8.4%	24	10.6%	35	13.9%	37	14.7%	27	10.7%	39	0.155
学年計	男子	99	11.9%	124	14.9%	88	10.6%	119	14.3%	132	15.8%	162	19.4%	130	15.6%	164	19.7%	
	女子	37	8.6%	41	9.6%	34	7.9%	38	8.9%	64	14.9%	86	20.0%	56	13.1%	88	20.5%	
	合計	136	10.8%	165	13.1%	122	9.7%	157	12.4%	196	15.3%	248	19.4%	186	14.5%	252	19.7%	
経済学部	男子	29	9.7%	33	11.0%	25	8.3%	29	9.7%	16	5.3%	22	7.3%	15	5.0%	22	7.3%	
	女子	5	5.6%	6	6.7%	5	5.6%	6	6.7%	4	5.3%	7	9.2%	3	3.9%	7	9.2%	
	合計	34	8.7%	39	10.0%	30	7.7%	35	9.0%	20	5.3%	29	7.7%	18	4.8%	29	7.7%	
経営学部	男子	35	15.0%	37	15.8%	36	15.4%	36	15.4%	20	6.7%	36	12.0%	17	5.7%	37	12.4%	
	女子	6	6.3%	9	9.4%	6	6.3%	9	9.4%	8	7.9%	1	1.0%	9	8.9%	1	1.0%	
	合計	41	12.4%	46	13.9%	42	12.7%	45	13.6%	28	7.0%	37	9.3%	26	6.5%	38	9.5%	
法学部	男子	10	3.8%	14	5.3%	8	3.1%	14	5.3%	10	4.0%	14	4.0%	9	3.6%	14	5.6%	
	女子	7	6.4%	6	5.5%	7	6.4%	5	4.5%	11	9.7%	10	8.8%	11	9.7%	12	10.6%	
	合計	17	4.6%	20	5.4%	15	4.0%	19	5.1%	21	5.8%	24	6.6%	20	5.5%	26	7.1%	
人文学部	男子	5	6.0%	3	3.6%	4	4.8%	3	3.6%	3	3.3%	7	7.6%	4	4.3%	7	7.6%	
	女子	6	3.3%	9	4.9%	6	3.3%	9	4.9%	14	9.0%	11	7.1%	12	7.7%	13	8.4%	
	合計	11	4.1%	12	4.5%	10	3.8%	12	4.5%	17	6.9%	18	7.3%	16	6.5%	20	8.1%	
学年計	男子	79	9.0%	87	9.9%	73	8.3%	82	9.3%	49	5.6%	79	9.0%	45	5.1%	80	9.1%	
	女子	24	5.0%	30	6.3%	24	5.0%	29	6.1%	37	7.7%	29	6.1%	35	7.3%	33	6.9%	
	合計	103	7.6%	117	8.6%	97	7.1%	111	8.2%	86	6.2%	108	7.8%	80	5.8%	113	8.1%	
全体	男子	1137	30.5%	1355	36.4%	1044	28.0%	1300	34.9%	1183	30.7%	1426	37.0%	1094	28.4%	1439	37.3%	
	女子	453	24.6%	546	29.7%	432	23.5%	530	28.8%	495	27.1%	591	32.3%	447	24.4%	603	33.0%	
	合計	1590	28.6%	1901	34.2%	1476	26.5%	1830	32.9%	1678	29.5%	2017	35.5%	1541	27.1%	2042	35.9%	

71.6%)と7割から8割を占め、他学部に比べ履修率は高率であった。これは、経済学部1部の2003年-2007年度カリキュラム適用学生は、保健体育科目(体育実技・健康科学)が2単位必修となっているために、体育実技の履修を1年次に優先させる者が多かったのではないかと推測される。また、前述した学年別において1年生履修率が他の学年を凌駕する結果を示していたことに、この経済学部の履修率が影響を与えているか否かについては、詳細にデータを検定していないことから明らかにはできない。この件については、今後の課題としていきたい。

最後に履修率を学期別でみると、第2学期が僅少なながら低率を占めていたが、第1学期、第2学期ともに、ほとんど同様な数値を示しており、両学期にわたって体育実技の履修希望があることが示唆された。

さて、次に2部学生の履修者数および履修率を報告する。なお、表4-C, Dは履修者の一覧、図3は2部1学期、図4は2部第2学期の履修率を示している。これによれば、

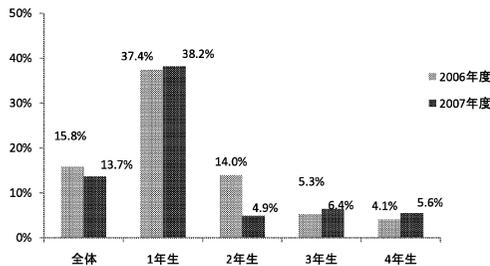


図3. 履修率1学期(2部)

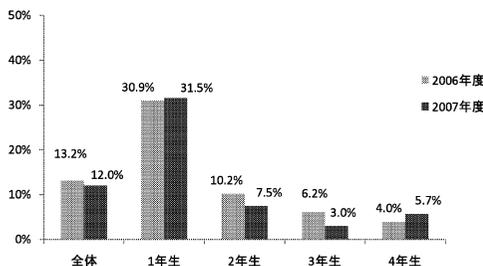


図4. 履修率2学期(2部)

全体では2006年度第1学期(337名・15.8%)、第2学期(281名・13.2%)。2007年度第1学期(306名・13.7%)、第2学期(268名・12.0%)であり、履修率は1割強を占めていた。2部学生の在籍者数は両年度ともに2000名を超えていることから判断すれば、履修率は少なくないと言えよう。

次にこれを学年別でみると、2部も1部と同様に1年生の履修率が他の学年を凌駕していた。1年生では2006年度第1学期(207名・37.4%)、第2学期(171名・30.9%)、2007年度第1学期(212名・38.2%)、第2学期(175名・31.5%)と3割から3割強を占め、やはり体育実技の履修を1年次に優先させる傾向が窺える。また、上級生の履修率に着目すると、2年生では2006年度第1学期(85名・14.0%)、第2学期(62名・10.2%)、2007年度第1学期(29名・4.9%)、第2学期(44名・7.5%)を占めていた。3年生では2006年度第1学期(23名・5.3%)、第2学期(27名・6.2%)、2007年度第1学期(32名・6.4%)、第2学期(15名・3.0%)を占めていた。4年生では2006年度第1学期(22名・4.1%)、第2学期(21名・4.0%)、2007年度第1学期(33名・5.6%)、第2学期(34名・5.7%)を占めていた。以上のように、上級生の履修率は両学期を通じて3.0%-14.0%であった。上級生の体育実技のニーズも決して低くはないと思われる。

次に男女別でみていくこととする。男子では、2006年度第1学期(253名・15.7%)、第2学期(203名・12.6%)、2007年度第1学期(249名・14.5%)、第2学期(223名・13.0%)を占め、他方、女子では、2006年度第1学期(84名・16.2%)、第2学期(78名・15.1%)、2007年度第1学期(57名・11.1%)、第2学期(45名・8.8%)を占めていた。以上、男女ともほぼ同様な割合を占め、両年度両学期を通じて8.8-16.2%の者

表4-C. 体育実技の履修者と希望者(2部)

学年	学部	性別	2006年度						2007年度									
			1学期			2学期			1学期			2学期						
			履修者	履修率	希望者	希望率	履修者	履修率	希望者	希望率	履修者	履修率	希望者	希望率				
1 年 生	経済学部	男子	62	48.4%	71	55.5%	60	46.9%	71	55.5%	71	48.3%	86	58.5%	63	42.9%	80	54.4%
		女子	12	70.6%	8	47.1%	12	70.6%	9	52.9%	2	14.3%	7	50.0%	3	21.4%	7	50.0%
		合計	74	51.0%	79	54.5%	72	49.7%	80	55.2%	73	45.3%	93	57.8%	66	41.0%	87	54.0%
	経営学部	男子	33	34.0%	41	42.3%	28	28.9%	36	37.1%	40	42.1%	54	56.8%	42	44.2%	50	52.6%
		女子	9	37.5%	8	33.3%	8	33.3%	5	20.8%	5	22.7%	5	22.7%	3	13.6%	4	18.2%
		合計	42	34.7%	49	40.5%	36	29.8%	41	33.9%	45	38.5%	59	50.4%	45	38.5%	54	46.2%
	法学部	男子	42	28.6%	56	38.1%	24	16.3%	51	34.7%	38	27.7%	54	39.4%	17	12.4%	29	21.2%
		女子	14	28.0%	15	30.0%	10	20.0%	11	22.0%	18	36.0%	19	38.0%	5	10.0%	8	16.0%
		合計	56	28.4%	71	36.0%	34	17.3%	62	31.5%	56	29.9%	73	39.0%	22	11.8%	37	19.8%
	人文学部	男子	20	44.4%	21	46.7%	15	33.3%	16	35.6%	23	46.9%	26	53.1%	27	55.1%	27	55.1%
		女子	15	33.3%	22	48.9%	14	31.1%	18	40.0%	15	36.6%	20	48.8%	15	36.6%	20	48.8%
		合計	35	38.9%	43	47.8%	29	32.2%	34	37.8%	38	42.2%	46	51.1%	42	46.7%	47	52.2%
学年計	男子	157	37.6%	189	45.3%	127	30.5%	174	41.7%	172	40.2%	220	51.4%	149	34.8%	186	43.5%	
	女子	50	36.8%	53	39.0%	44	32.4%	43	31.6%	40	31.5%	51	40.2%	26	20.5%	39	30.7%	
	合計	207	37.4%	242	43.8%	171	30.9%	217	39.2%	212	38.2%	271	48.8%	175	31.5%	225	40.5%	
経済学部	男子	19	12.2%	19	12.2%	15	9.6%	20	12.8%	6	4.0%	7	4.7%	10	6.7%	9	6.0%	
	女子	3	17.6%	5	29.4%	2	11.8%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	合計	22	12.7%	24	13.9%	17	9.8%	21	12.1%	6	3.6%	7	4.2%	10	6.0%	9	5.4%	
経営学部	男子	14	14.7%	15	15.8%	11	11.6%	12	12.6%	6	5.3%	14	12.4%	7	6.2%	14	12.4%	
	女子	3	9.7%	1	3.2%	3	9.7%	1	3.2%	0	0.0%	3	11.5%	0	0.0%	3	11.5%	
	合計	17	13.5%	16	12.7%	14	11.1%	13	10.3%	6	4.3%	17	12.2%	7	5.0%	17	12.2%	
法学部	男子	15	9.0%	16	9.6%	7	4.2%	12	7.2%	1	0.7%	6	4.0%	6	4.0%	10	6.7%	
	女子	2	3.9%	2	3.9%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%	2	4.4%	4	8.9%	5	11.1%	
	合計	17	7.8%	18	8.3%	8	3.7%	13	6.0%	1	0.5%	8	4.1%	10	5.2%	15	7.7%	
人文学部	男子	16	40.0%	14	35.0%	11	27.5%	12	30.0%	11	25.6%	6	14.0%	9	20.9%	7	16.3%	
	女子	13	25.0%	17	32.7%	12	23.1%	17	32.7%	5	10.9%	10	21.7%	8	17.4%	8	17.4%	
	合計	29	31.5%	31	33.7%	23	25.0%	29	31.5%	16	18.0%	16	18.0%	17	19.1%	15	16.9%	
学年計	男子	64	14.0%	64	14.0%	44	9.6%	56	12.3%	24	5.3%	33	7.3%	32	7.0%	40	8.8%	
	女子	21	13.9%	25	16.6%	18	11.9%	20	13.2%	5	3.8%	15	11.3%	12	9.0%	16	12.0%	
	合計	85	14.0%	89	14.6%	62	10.2%	76	12.5%	29	4.9%	48	8.2%	44	7.5%	56	9.5%	

表4-D. 体育実技の履修者と希望者（2部）

学年	学部	性別	2006年度						2007年度									
			1学期			2学期			1学期			2学期						
			履修者	履修率	希望者	希望率	履修者	履修率	希望者	希望率	履修者	履修率	希望者	希望率				
3 年 生	経済学部	男子	9	8.3%	11	10.2%	7	6.5%	6	5.6%	5	4.1%	9	7.3%	5	4.1%	8	6.5%
		女子	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%
		合計	9	7.3%	11	8.9%	8	6.5%	6	4.8%	5	3.6%	9	6.5%	6	4.3%	8	5.8%
	経営学部	男子	2	2.5%	3	3.8%	3	3.8%	3	3.8%	1	1.5%	1	1.5%	1	1.5%	1	1.5%
		女子	0	0.0%	2	14.3%	0	0.0%	3	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		合計	2	2.2%	5	5.4%	3	3.2%	6	6.5%	1	1.0%	1	1.0%	1	1.0%	1	1.0%
	法学部	男子	4	3.7%	4	3.7%	2	1.8%	2	1.8%	19	14.0%	24	17.6%	4	2.9%	3	2.2%
		女子	2	6.3%	1	3.1%	1	3.1%	1	3.1%	6	13.0%	3	6.5%	3	6.5%	2	4.3%
		合計	6	4.3%	5	3.5%	3	2.1%	3	2.1%	25	13.7%	27	14.8%	7	3.8%	5	2.7%
	人文学部	男子	3	7.0%	3	7.0%	5	11.6%	5	11.6%	0	0.0%	4	12.9%	1	3.2%	0	0.0%
		女子	3	8.1%	4	10.8%	8	21.6%	6	16.2%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		合計	6	7.5%	7	8.8%	13	16.3%	11	13.8%	1	1.3%	4	5.0%	1	1.3%	0	0.0%
学年計	男子	18	5.3%	21	6.2%	17	5.0%	16	4.7%	25	7.0%	38	10.6%	11	3.1%	12	3.4%	
	女子	5	5.1%	7	7.1%	10	10.1%	10	10.1%	7	5.0%	3	2.1%	4	2.9%	2	1.4%	
	合計	23	5.3%	28	6.4%	27	6.2%	26	5.9%	32	6.4%	41	8.2%	15	3.0%	14	2.8%	
経済学部	男子	0	0.0%	2	1.6%	1	0.8%	2	1.6%	11	6.8%	13	8.0%	12	7.4%	12	7.4%	
	女子	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	0	0.0%	1	4.8%	
	合計	0	0.0%	2	1.4%	1	0.7%	2	1.4%	11	6.0%	14	7.7%	12	6.6%	13	7.1%	
経営学部	男子	10	11.5%	15	17.2%	9	10.3%	9	10.3%	5	5.1%	6	6.1%	5	5.1%	5	5.1%	
	女子	4	16.0%	2	8.0%	3	12.0%	2	8.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	合計	14	12.5%	17	15.2%	12	10.7%	11	9.8%	5	4.3%	6	5.2%	5	4.3%	5	4.3%	
法学部	男子	3	1.9%	6	3.9%	3	1.9%	5	3.2%	9	5.3%	11	6.4%	11	6.4%	9	5.3%	
	女子	1	2.8%	1	2.8%	1	2.8%	1	2.8%	1	2.8%	1	2.8%	2	5.6%	1	2.8%	
	合計	4	2.1%	7	3.7%	4	2.1%	6	3.1%	10	4.8%	12	5.8%	13	6.3%	10	4.8%	
人文学部	男子	1	3.0%	2	6.1%	2	6.1%	4	12.1%	3	6.1%	8	16.3%	3	6.1%	6	12.2%	
	女子	3	6.3%	2	4.2%	2	4.2%	1	2.1%	4	10.3%	3	7.7%	1	2.6%	1	2.6%	
	合計	4	4.9%	4	4.9%	4	4.9%	5	6.2%	7	8.0%	11	12.5%	4	4.5%	7	8.0%	
学年計	男子	14	3.5%	25	6.3%	15	3.8%	20	5.0%	28	5.8%	38	7.9%	31	6.4%	32	6.7%	
	女子	8	6.1%	5	3.8%	6	4.5%	4	3.0%	5	4.5%	5	4.5%	3	2.7%	3	2.7%	
	合計	22	4.1%	30	5.6%	21	4.0%	24	4.5%	33	5.6%	43	7.3%	34	5.7%	35	5.9%	
全体	男子	253	15.7%	299	18.5%	203	12.6%	266	16.5%	249	14.5%	329	19.1%	223	13.0%	270	15.7%	
	女子	84	16.2%	90	17.4%	78	15.1%	77	14.9%	57	11.1%	74	14.5%	45	8.8%	60	11.7%	
	合計	337	15.8%	389	18.3%	281	13.2%	343	16.1%	306	13.7%	403	18.0%	268	12.0%	330	14.8%	

が体育実技を履修していることが明らかとなった。

また、2部学生も学期別でみると、第1、第2学期ともほぼ同様な割合を占めており、両学期にわたっての履修希望があるものと考えられる。

## 2) 希望率について

さて、ここからは希望率についてみていくこととする。(表4-A~D参照)

前述したように、希望率とは学生が履修希望調整時に提出したマークカードの希望者数を各年度の在籍者数の割合から見た数値を示しており、学生が教務課に履修手続きをする以前における体育実技希望者数の割合を示した数値である。希望率は前述した履修率との関連からコメントすることが必要である。希望率と履修率の差が意味するところは、学生の履修希望が叶えられているか否かを示していることになる。したがって、両者を記述しながらその差についてみていくこととする。まず、1部全体である。2006年度第1学期の希望率が34.2%に対して履修率は28.6%を占め、5.6%の差が認められた。また、2006年度第2学期の希望率が32.9%に対して履修率は26.5%を占め、6.4%の差が認められた。同様に、2007年度第1学期の希望率が35.5%に対して履修率は29.5%を占め、6.0%の差が認められた。また、2007年度第2学期の希望率が35.9%に対して履修率は27.1%を占め、8.8%の差が認められた。以上の結果から、1部学生では両年度両学期を通じて5.6-8.8%の者が体育実技の履修希望を叶えることができなかったことを示していた。同様に2部の全体をみていくこととする。2006年度第1学期の希望率が18.3%に対して履修率は15.8%を占め、2.5%の差が認められた。また、2006年度第2学期の希望率が16.1%に対して、履修率は13.2%を占め、2.9%の差が認められた。同様に、

2007年度第1学期の希望率が18.0%に対し、履修率は13.7%を占め、4.3%の差が認められた。また、2007年度第2学期の希望率が14.8%に対し、履修率は12.0%を占め、2.8%の差が認められた。同様に、2部学生では両年度両学期を通じて2.5-4.3%の者が体育実技の履修希望を叶えることができなかったことを示していた。

次に、1年生に着目してこの希望率と履修率について示したものが図5(1部1年生)、図6(2部1年生)である。同様に、両者の差をみていくこととする。これによれば、1部1年生では2006年度第1学期の希望率が65.0%に対して履修率は54.4%を占め、10.6%の差が認められた。2006年度第2学期の希望率が62.8%に対して履修率は49.9%を占め、12.9%の差が認められた。2007年度第1学期の希望率が70.6%に対して履修率は59.9%を占め、10.7%の差が認められた。2007年度第2学期の希望率が71.0%に対して履修率は54.3%を占め、16.7%の差が認められた。また、同様に2部1年生では2006年度第1学期の希望率が

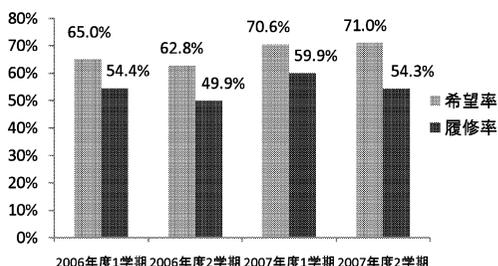


図5. 希望率と履修率(1部1年生)

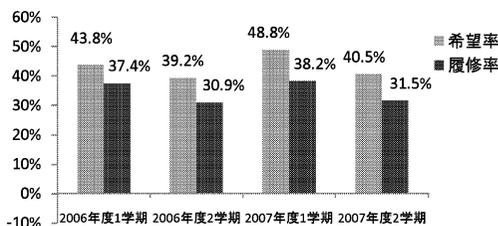


図6. 希望率と履修率(2部1年生)

43.8%に対して履修率は37.4%を占め、6.4%の差が認められた。2006年度第2学期の希望率が39.2%に対して履修率は30.9%を占め、8.3%の差が認められた。2007年度第1学期の希望率が48.8%に対して履修率は38.2%を占め、10.6%の差が認められた。2007年度第2学期の希望率が40.5%に対して履修率は31.5%を占め、9.0%の差が認められた。以上の結果から、1部1年生では10.6-16.7%の者が、2部1年生では6.4-10.6%の者が、体育実技の履修希望を断念していたことが本調査で明らかになった。

先に報告した通り、体育実技は各実技種目の受講人数制限を定めている。しかし、履修希望を有する学生が種目決定の抽選に漏れてしまい、その結果、体育実技履修そのものを断念する者が出てしまうのである。体育科では抽選に漏れた学生には第2希望種目へのエントリーを勧めているが、あくまで第1希望種目を熱望する者が抽選漏れた場合、履修を取りやめるケースがあることも事実である。履修人数制限を設けることは、実技指導の教育効果面から考慮した場合には致し方ないと思われる。しかし、施設収容限界の問題が受講希望者の定員制限につながっている現状は、正直、残念でならない。今後、少しでも多くの学生の受講希望を叶えるためにも、体育施設の拡充整備は急務である。

### 3) 合格率について

合格率とは、体育実技の合格者数を実履修者数の割合から見た数値を示したものである。図7は2006年度、2007年度における1部学生第1学期、第2学期の合格率平均を全体および学年別に示したものである。同様に、図8は2部学生について示したものである。これによれば、全体および学年別では1部2部を問わず、第2学期の方が第1学期よりも合格率は低率を占めていた。1部全体では、第1学期94.1%に対して第2学期84.6%で

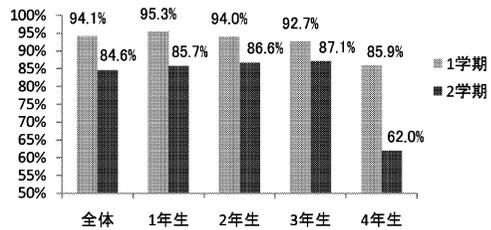


図7. 合格率 2006・2007年の平均（1部）

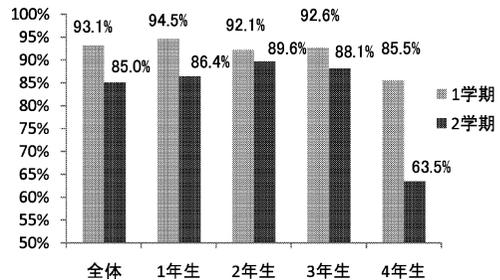


図8. 合格率 2006・2007年の平均（2部）

9.5%の減少、同様に2部全体では、第1学期93.1%に対して第2学期85.0%で8.1%の減少となっている。これら第2学期における合格率の減少は、体育実技の単位修得をあきらめてしまい単位認定されない学生が、第1学期より第2学期に多くいることを示している。この理由について特定することはできないが、第2学期は実施期間が冬期間に入ることから、授業参加意識が低下し欠席する者が多くなり、その結果、単位不合格に繋がるという悪循環に陥るのではないかとと思われる。

合格率を学年別にみると、1部1年生では、第1学期95.3%に対して第2学期85.7%で9.6%の減少、2年生では第1学期94.0%に対して第2学期86.6%で7.4%の減少、3年生では第1学期92.7%に対して第2学期87.1%で5.6%の減少、4年では第1学期85.9%に対して第2学期62.0%で23.9%の減少であった。

同様に2部1年生では、第1学期94.5%に対して第2学期86.4%で8.1%の減少、2年生では第1学期92.1%に対して第2学期89.6%で2.5%の減少、3年生では第1学期

92.6%に対して第2学期88.1%で4.5%の減少、4年生では第1学期85.5%に対して第2学期63.5%で22.0%の減少を示している。

この合格率の減少傾向が顕著に現われている学年は4年生であった。4年生は最終学年の最終学期を迎え、自己の将来の進路を決定するための就職活動等により、日々、多忙な毎日を送っているものと思われる。このような多忙な状況下にありすでに卒業所要単位の修得を完了している者が、体育実技の単位履修を放棄する場合があります、この結果に現われたのではないかと推測する。

また、1部2部を問わず1年生の合格率の減少傾向は、2、3年生に比べて約10%程度と大きいことが明らかになった。つまりこのことは、1年生では第2学期に授業参加しない学生がおり、単位認定されない学生が2、3年生よりも多いことを示している。本学の体育実技の評価基準は、授業出席を特に重視している。体育実技に授業参加しなくなる1年生の中には、体育実技のみならず大学教育からもドロップアウトしている者が多いのではないかと推測する。1年次における大学体育実技の役割は、前述した体育の指導目的が重要なことは言うまでもないが、学生が実技授業を通してコミュニケーション能力や人間性を高めるとともに、人間関係の構築につながることも大切である。すなわち、初年次教育の一役を担うことに体育実技が貢献するものでなければならぬと考える。

## V. ま と め

以上、今回は2006年度、2007年度における体育実技履修状況について報告してきたが、残念ながら新大学設置基準の施行以降、全国的に体育実技履修学生が減少しており、日々の生活も運動不足に陥り体力や健康に不安を

抱える学生が増加しているのではないかとと思われる。

今後、願わくは一人でも多くの学生が体育実技を履修することを望むものである。そして、大学体育実技を健全なる社会人の育成に寄与する教科とするべく、我々指導スタッフの今後の一層の努力が必要であろう。

## 2006年度・2007年度体育実技 受講学生履修状況の要約

- 1) 1部学生では、2006年度・2007年度ともに全在籍学生数の26.5-29.5%の者が体育実技を履修していた。
- 2) 2部学生では、2006年度・2007年度ともに全在籍学生数の12.0-15.8%の者が体育実技を履修していた。
- 3) 履修率は、1部2部ともに1年生が上級生を凌駕していた。
- 4) 1部学生では、両年度を通じて5.6-8.8%の者が体育実技の履修を断念していた。
- 5) 2部学生では、両年度を通じて2.5-4.3%の者が体育実技の履修を断念していた。
- 6) 合格率は、第2学期の方が第1学期よりも低率であった。
- 7) 1部2部学生とも1年生の合格率は、第1学期合格率が第2学期合格率より約10%程度低率であった。

## 引用・参考文献および資料

北海学園大学経営学部、履修の手引き 2008年度  
北海学園体育実技担当者編集、北海学園大学体育実技 履修の手引き 2008年